# 車輪付き回転アームを用いた階段昇降可能な車椅子

Stair-ClimbingPower Wheelchair Using Revolving Arms withWheels

玉川大学工学部 柳原 直人、菅沢 深、鈴木 夏夫 玉川大学大学院工学研究科 金海 吉秀 (株)日本人材サービス 金丸 豊文 (株)相互発條 石井 崇

キーワード:車椅子、階段

### 1.はじめに

車椅子の利用者が屋外活動しようとする場合に大きな問題となるのが階段昇降である。 公共施設においては、エレベータおよび、階段昇降機の設置が進められているが、まだまだ十分ではなく、階段が車椅子利用者の社会参加の妨げにもなっている。

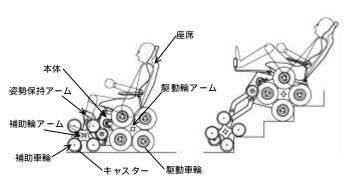
筆者らはこれまでに車輪付き回転アームを用いた階段昇降機構を歯付きベルトとプーリで駆動させる方法を開発し、これを車椅子に適用することにより安定した階段昇降が可能なことを示した。この車椅子をより安全で乗りやすいように改良した QUATTRO- を開発し、実用レベルまで高めることができたので、その構造と特徴について示す。

### 2.車椅子の構造

QUATTRO- では、車椅子が階段の下側にはぜったに転倒することのないように、補助輪の位置を前方に変更した。図1に車椅子の

すように、本体には駆動輪アーム・座席・姿 勢保持アームが取り付けられている。本体の 前方の姿勢保持アームの先端には補助輪アー ムとキャスターを取り付けた構造になってい る。平地では、左右の駆動輪アームを歯車を 介して連結している回転軸に取り付けたモー タを回転させ、図1(a)のように駆動車輪の 前側を少し持ち上げて後側の駆動車輪を接地 させ、これとキャスターにより走行する。こ れにより、平地走行においては通常の電動車 椅子と同様な走行条件となる。階段昇降時は 重心を駆動輪アームの中心に近づける必要が あるため座席を後方に移動し、姿勢保持アー ムを伸して座席を約20°階段側に傾ける。 また、階段昇降時には、クリノメータによっ て座席の角度を検出し、座席の角度が一定に

構造と階段昇降の状態を示す。図1(a)に示



(a) 平地走行時 (b) 階段昇降時 図 1 車椅子の構造

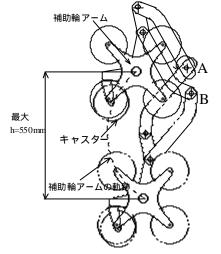


図2 姿勢保持アームの構造



図3 坂道での様子

保たれるように、姿勢保持アームを上下に変 位させる。

## 3.姿勢保持アーム機構

図 2 に姿勢保持アームの構造を示す。平行リンクの支点 A,B は本体に固定されており、左右のアームは歯車を介した軸によって同期しており、この軸に姿勢制御用モータでトンクを与えて姿勢保持アームを作動させる。との機構により補助輪アームの中心位置を上で最大 550 mm変位させることができる。ことができることにより、図 3 によりに近においても座席の角度を水平に保ったままで走行できる機能を持たせることが可能になる。

## 4.座席の移動

人間を含む車椅子全体の重心位置は平地走行時と階段昇降時で変更しなくてはならない。更に利用者の移乗を考えたとき、可能な限り移乗しやすい場所に座席を移動させることが望ましい。そこで座席の左右のボールねじと小型モータによって、座席の位置は前後200mm移動可能になっている。

### 5.試作した車椅子

試作した車椅子を図4に示す。また、主要 寸法および、諸元を表1に示す。

階段昇降時の安全性を考慮して、横幅を広げたため、電動車椅子の JIS 規格より大きくしているが規格以内に変更することは容易である。また、階段のけあげ高さについては、200mmでも昇降可能になっている。



図 4 試作した車椅子

表 1 主要寸法および諸元

車幅	820mm
平地走行時全長	1025mm
平地走行時高さ	1245mm
昇降可能な階段 けあげ高さ 踏み面長さ	180mm 250mm
ギヤードモータ	120W × 4
バッテリ	12V35Ah × 2
総重量	100Kg

モータは左右駆動輪用、駆動輪アーム用および姿勢保持アーム用の4台とも日進医療器(株の電動車椅子ネオピーワンに用いられている(株松下電器製ギヤードモータを使用させていただいている。また、駆動力を高めるため、駆動輪はチェーンとスプロケットによって回転させている。

## 6.まとめ

走行試験により、平地での走行は通常の電動車椅子と同様に利用できること。また階段においても十分安全な昇降が可能であるごとが確かめられた。更に、平地走行および階段昇降において通常の車椅子のジョイスティできた。しかし、階段昇降時においては後ろに進行するためジョイスティックの操作に迷いを生じる場合があることも判明した。今後は、試走実験を重ね細部にわたっての改良を進める。